

# 第8期 決算速報

(平成13年7月1日～平成14年6月30日)



平成14年8月16日

## 株式会社 旅籠屋

---

会社名(定款上の商号)	株式会社 旅籠屋
英文名(英文商号)	Hatagoya & Company
代表者の役職氏名	代表取締役社長 甲斐 真
本店の所在の場所	東京都台東区寿3丁目3番4号
電話番号	03-3847-8858
連絡者	代表取締役社長 甲斐 真

---

## 当期の業績の概況

### (1) 損益の状況

損益計算書 (単位：千円)

	今年度 第1四半期 H13.7.1～ H13.9.30	今年度 第2四半期 H13.10.1～ H13.12.31	今年度 第3四半期 H14.1.1～ H14.3.31	今年度 第4四半期 H14.4.1～ H14.6.30	今年度 累計 H13.7.1～ H14.6.30	前年度 累計 H12.7.1～ H13.6.30
営業収益	44,873	32,785	33,044	33,036	143,738	80,450
営業費用	<u>38,940</u>	<u>48,175</u>	<u>38,100</u>	<u>43,176</u>	<u>168,394</u>	<u>103,531</u>
営業損益	5,932	15,390	5,056	10,140	24,655	23,080
営業外収益	457	9	7	39	514	2,365
営業外費用	<u>2,231</u>	<u>2,290</u>	<u>2,262</u>	<u>2,584</u>	<u>9,368</u>	<u>7,128</u>
経常損益	4,158	17,671	7,311	12,685	33,509	27,844
特別利益	-	-	-	-	-	-
特別損失	-	-	-	-	-	-
法人税等	<u>160</u>	-	-	<u>932</u>	<u>1,092</u>	<u>770</u>
当四半期損益	3,998	17,673	7,311	13,617	34,601	28,614
前期繰越損益	103,273	99,275	116,947	124,258	103,273	74,659
四半期末処分損益	99,275	116,947	124,258	137,875	137,875	103,273

期中平均 発行済株式総数	5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,620 株	5,131 株
1株当たり当期損益	711 円	3,144 円	1,300 円	2,422 円	6,156 円	5,583 円
潜在株式調整後の 1株当たり当期損益	674 円	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)	(注1)

(注)潜在株式調整後の1株あたりの当期損益は、最終損益が損失となるため記載を省略しております。

営業収益は前年度比79%増加しましたが、当期損益は34,601千円となり、損失額が増加しました。

### (2) 営業損益の部門別内訳

(単位：千円)

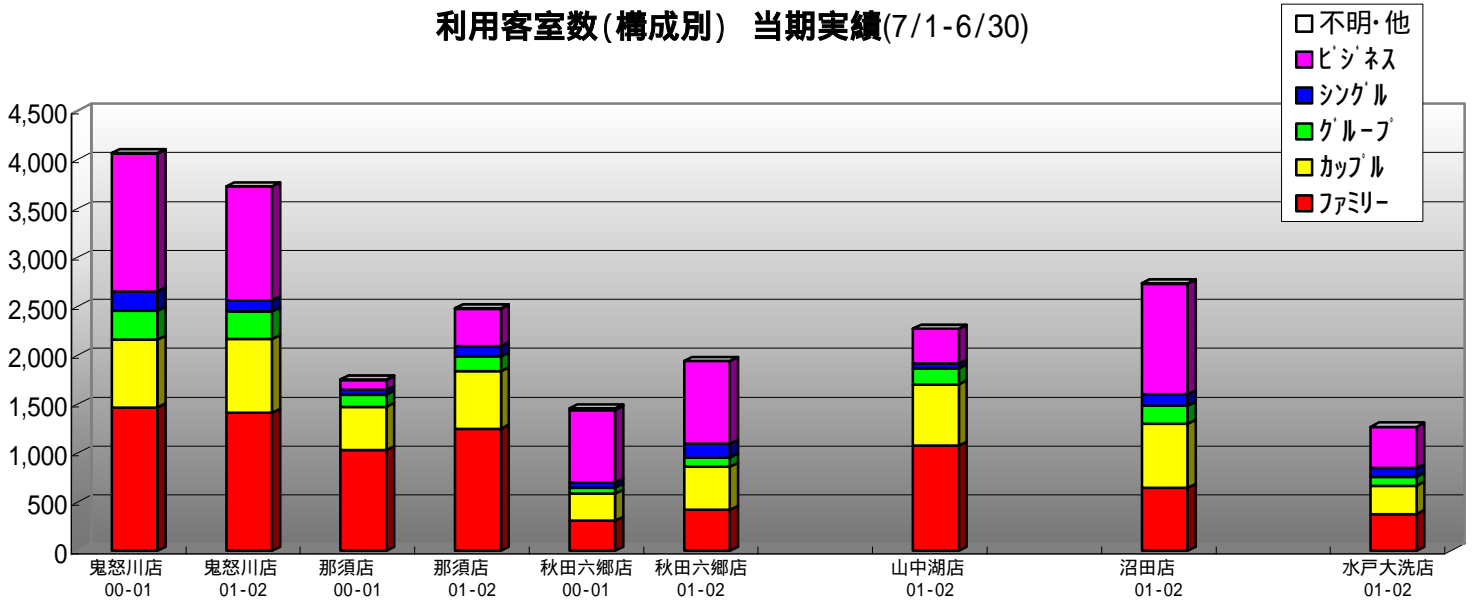
当社では、部門別の損益状況を把握するため、営業外収支を含め、すべての取引を部門別に分解して仕訳しております。

	本社	鬼怒川店	那須店	秋田六郷店	山中湖店	沼田店	水戸大洗店	全社合計
客室稼働率	-	53.7%	56.6%	44.4%	46.6%	67.0%	38.8%	-
(前年度稼働率)	-	(61.2%)	(40.0%)	(33.2%)	(-)	(-)	(-)	(-)
客室単価	-	9,773 円	10,274 円	8,082 円	10,255 円	8,471 円	8,707 円	-
室料売上	-	36,414	25,479	15,711	23,289	23,169	11,058	135,121
室料外売上	<u>3,794</u>	<u>3,395</u>	<u>779</u>	<u>179</u>	<u>199</u>	<u>170</u>	<u>97</u>	<u>8,617</u>
売上合計	3,794	39,809	26,259	15,890	23,488	23,339	11,155	143,738
(償却前)費用合計	41,947	22,416	14,012	12,527	13,336	21,254	16,470	141,964
(償却前)営業損益	38,152	17,392	12,247	3,363	10,152	2,085	5,314	1,774
(償却後)営業損益	39,594	9,168	7,335	2,429	5,139	1,536	5,813	24,655
経常損益	44,152	9,133	5,917	2,429	2,286	1,536	5,803	33,509

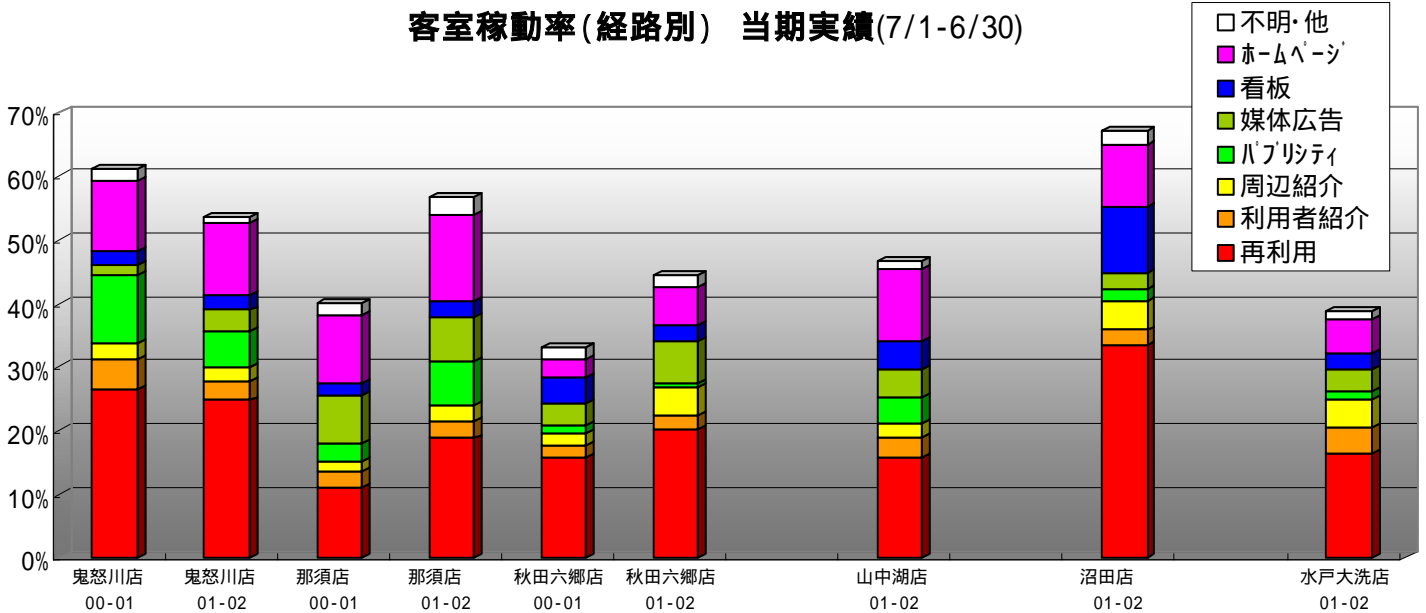
稼働率は前年度に比べ「鬼怒川店」は大幅減少、2年目の「那須店」「秋田六郷店」は大幅に増加しました。全社の償却前営業損益はプラスでしたが、償却費と支払利息により経常損益は33,509千円となりました。

( 3 ) 各店舗の今期累計 ( H13.7.1 ~ H14.6.30 )

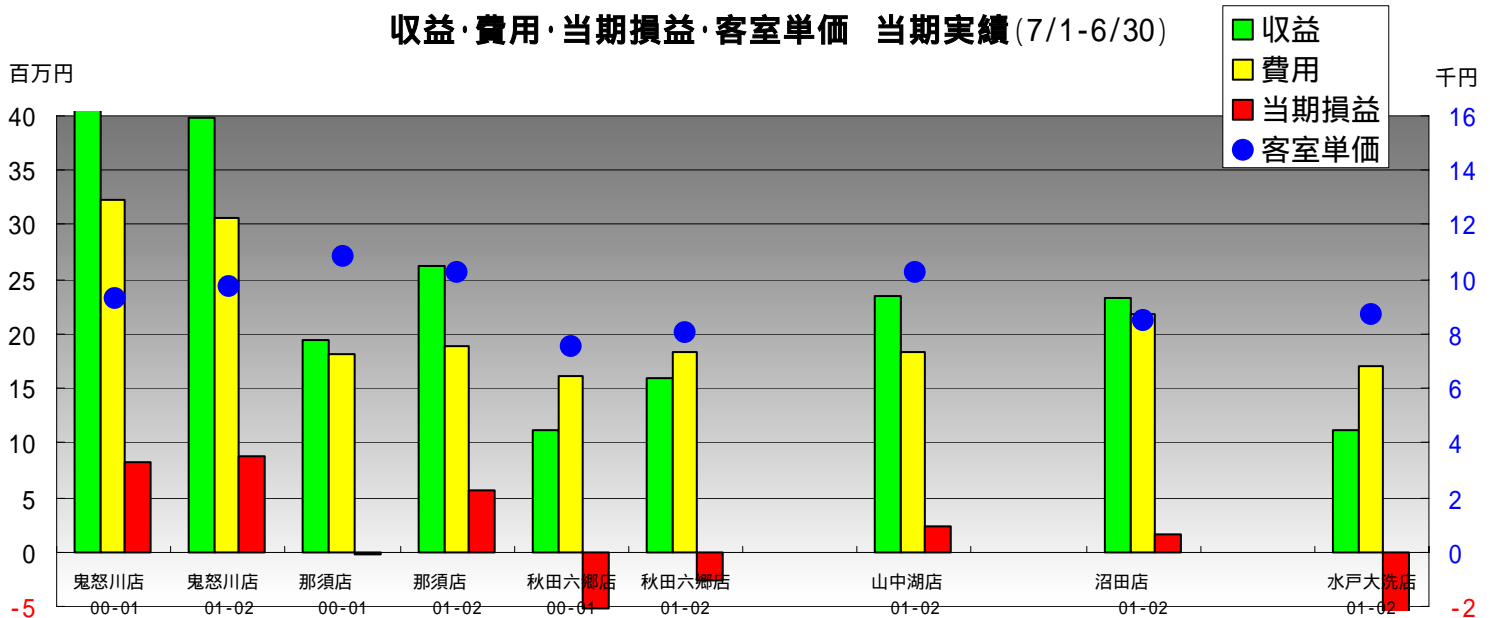
利用客室数 ( 構成別 ) 当期実績 ( 7/1-6/30 )



客室稼働率 ( 経路別 ) 当期実績 ( 7/1-6/30 )



収益・費用・当期損益・客室単価 当期実績 ( 7/1-6/30 )



#### 鬼怒川店

前期に比べ客室稼働率は大幅に減少（61.2%→53.7%）しましたが、客室単価の上昇により売上高は微減にとどまり、費用も減少（-5.3%）したため、当期利益は過去最高の8,811千円となりました。稼働率の減少および客室単価の増加はビジネス客の減少によるものですが、下半期を通じてこの傾向が続いていることから稼働率の大幅回復は難しいと予想しております。旅行雑誌への広告掲載などによって観光客の新規開拓を図り、来期は売上高40,000千円の回復と利益10,000千円を達成したいと計画しております。

#### 那須店

前期に比べ、客室稼働率（40.0%→56.6%）売上高（+34.9%）とも大幅に増加し、5,918千円の当期利益を計上することができました。当初はビジネス利用がほとんどなく、平日の空室が目立っていましたが、周辺事業所へのPRなどが奏功しビジネス客の割合が増えつつあります。

#### 秋田六郷店

「那須店」同様、前期に比べ客室稼働率（33.2%→44.4%）売上高（+43.0%）とも大幅に増加しましたが、損益分岐点を超えるには至らず当期損益は2,589千円となりました。「那須店」とは逆にビジネス利用への依存率が高かったのですが、観光利用も増えつつあり、来期は必ず黒字転換させたいところです。なお、7月にオープンした「北上店」は車で1時間ほどの距離にあり、相乗効果が期待されます。

#### 山中湖店

オープン初年度ながら2,287千円の当期利益を計上することができました。7月以降も好調なため、来期の利益額は大幅に拡大する見込みです。

#### 沼田店

オープン初年度ながら客室稼働率が67.0%に達し、1,536千円の当期利益を計上することができました。「山中湖店」に比べ稼働率が高いにもかかわらず売上高がほぼ同額となっているのは1人1室のビジネス利用が多く客室単価が低いことと客室数が2室少ないことによるものです。費用が大きいのは家賃負担のためです。昨年と比べ夏休みの稼働率が上昇しているため、来期の利益額は大幅に拡大する見込みです。

#### 水戸大洗店

10月オープンという悪条件のため、当期損益は5,803千円となりました。下半期からは利用者が目立って増加し夏休みの予約もひじょうに順調のため、来期は黒字化を確実にしたいと考えております。

#### 全社

各店舗はおおむね順調で、売上高も当初の計画値をほぼ達成したものの、当期損益は前期5,987千円の34,601千円となりました。店舗のみの損益は9,549千円（前期は444千円）の利益を計上しましたが、本社の損益が44,151千円（前期は29,058千円）と損失額が大幅に増えたことが影響しております。その主たる要因は人件費の増加（+8,434千円、役員の本社専従と交代要員費用の一部本社負担による）企画調整費売上の減少（-5,060、前期「水戸大洗店」の企画調整費が通常よりも高額であったことによる）雑収入の減少（-1,813、前期は「所有直営方式」の出店があり還付消費税があったことによる）の3点です。いずれも、店舗拡大に向けた社内体制の整備と出店方式の転換に伴う一時的な増減であり、店舗における利益は飛躍的に増加しておりますので、本格的な事業拡大の過渡的状況と考えております。

#### (4) 財政状態の状況

##### 貸借対照表 (単位: 千円)

	前年度 第4四半期末 H13.6.30	今年度 第1四半期末 H13.9.30	今年度 第2四半期末 H13.12.31	今年度 第3四半期末 H14.3.31	今年度 第4四半期末 H14.6.30
<b>(資産の部)</b>					
流動資産					
現金預金	27,656	36,220	22,048	7,029	15,400
その他	1,774	366	394	135	1,069
流動資産合計	29,429	36,586	22,443	7,165	16,470
固定資産					
有形固定資産合計	370,444	411,240	413,218	411,622	405,407
無形固定資産合計	1,130	3,512	3,467	3,423	2,964
投資等	11,154	11,045	10,936	13,915	13,798
固定資産合計	382,729	425,799	427,622	428,961	422,170
繰延資産	3,967	3,067	2,168	1,268	369
資産合計	416,127	465,453	452,234	437,395	439,010
<b>(負債の部)</b>					
流動負債	20,206	25,355	24,490	22,936	31,910
固定負債	198,994	239,173	244,491	238,518	244,775
負債合計	219,201	264,528	268,981	261,453	276,685
<b>(資本の部)</b>					
資本金	281,000	281,000	281,000	281,000	281,000
資本準備金	19,200	19,200	19,200	19,200	19,200
剰余金					
当期末処分損益	103,273	99,275	116,947	124,258	137,875
(うち期末累計損益)	( 28,614)	(3,998)	( 13,673)	( 20,984)	( 34,601)
資本合計	196,926	200,924	183,250	175,938	162,324
負債資本合計	416,127	465,453	452,231	437,393	439,010
発行済株式総数	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株	5,620株
1株当たり純資産	35,040円	35,751円	32,606円	31,305円	28,883円

投資等のうち 1,200 千円は信用金庫への出資金、他は鬼怒川店・秋田六郷店・沼田店・水戸大洗店・北上店の保証金です。

#### (5) 計算書類作成の基本となる事項

四半期計算書類の作成の基礎としている会計処理の原則及び手続は、下記事項を除き、正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「会社内容説明書 第四 経理の状況 重要な会計方針」をご参照ください。

事業年度の計算書類作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。なお、当該四半期計算書類については、公認会計士の監査を受けておりません。

##### 固定資産の減価償却の方法

各四半期の減価償却費は年間発生見積額の 1 / 4 に該当する金額を計上しております。

##### 繰延資産の処理方法

各四半期末の繰延資産償却費は、年間償却見積額の 1 / 4 に該当する金額を計上しております。

##### 経過勘定項目

未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間費用として処理しております。

##### 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっております。

## (6) 会計方針の変更

該当事項はありません。

## (7) 資金の状況

### 現預金の増減 (単位：千円)

	前年度 H12.7.1 ~ H13.6.30	今年度 H13.7.1 ~ H14.6.30
期初現預金残高	4,250	27,656
期末現預金残高	27,656	15,400
当期の増減	+23,406	12,255

### 借入金が増減 (単位：千円)

	前年度 H12.7.1 ~ H13.6.30	今年度 H13.7.1 ~ H14.6.30
期初借入金残高	113,328	206,780
期末借入金残高	206,780	265,881
四半期の増減	+ 93,452	+ 59,101

借入金の増加は、中小企業金融公庫からの成長新事業育成特別融資50,000千円（昨年8月実行、「山中湖店」建設資金に充当）および東京シティ信用金庫からの運転資金借入れ10,000千円（昨年11月実行）同じく20,000千円（本年4月実行）によるものです。

## 来期の業績予想

### 来期の業績予想 (単位：千円)

	当期 (H13.7/1 ~ H14.6/30) 実績			来期 (H14.7/1 ~ H15.6/30) 予想		
	売上高	営業損益	当期損益	売上高	営業損益	当期損益
本社	3,794	39,303	44,151	1,604	34,784	38,337
鬼怒川店	39,809	9,168	8,811	40,763	12,386	12,029
那須店	26,259	7,335	5,597	27,965	9,094	7,356
秋田六郷店	15,890	2,429	2,589	18,119	137	23
山中湖店	23,488	5,139	2,286	30,896	11,697	8,840
沼田店	23,339	1,536	1,536	27,000	4,241	4,241
水戸大洗店	11,155	5,813	5,803	23,870	3,175	3,175
北上店	-	290	290	13,104	5,912	5,912
合計	143,738	24,655	34,601	183,326	35	8,585

新規出店の予定が確定していないため、本社および既存店舗のみの業績予想をまとめたものです。繰延資産の減価償却が当期でほぼ完了したことなどによる本社の費用減少と店舗の売上増加により、営業損益は大幅に改善され、初めてプラスとなる計画です。ただし、支払利息など営業外費用の負担が大きく、既存店舗だけでは来期における損益の黒字転換は困難な見通しです。新規店舗の出店計画が具体化した場合、本社売上の大幅増加が見込まれるため、引き続き出店の交渉を進め、数年来の目標である来期黒字転換を実現したいと考えております。

なお、現在交渉中の新規出店の見通しが明らかになる今秋には、あらためて事業計画を作成し、公表する予定です。

## 今後の事業展開と出店計画について

### 7号「北上店」をオープン

7月20日、岩手県・北上市に予定通り7号「北上店」をオープンしました。東北自動車道沿いに「那須店」と「秋田六郷店」を結ぶための戦略的な出店であり、東北地方を周遊する旅行者に広く利用いただくことを目指しています。



### 今後の新規出店計画

知名度の上昇にともない「借上直営方式」での引き合いが断続的に寄せられており、毎月数箇所の候補地を視察しておりますが、立地条件に恵まれ確実に利益が見込める地域に限って出店していく方針もあり、現時点で出店が決定した案件はありません。「沼田店」に続く東京電力の遊休地活用の計画も引き続き進行中で、JA全中・全農に対しても市街化地域内非営農活用の提案を複数回行いました。さらにSS跡地利用について石油元売り会社へのアプローチも計画しております。

具体的なエリアとしては、既存店舗をつなぐために仙台周辺や山梨周辺、西へ拡大するために東海地方に優先して出店していきたいと考えております。また、収益基盤を強化するために、従来の地方の郊外型の店舗に加え、東京・大阪の湾岸エリアへの出店も並行して検討中です。

なお、5月に計画しておりました土地活用に関連する説明会は、複数の交渉案件があるため、開催を延期しております。

昨年発表しました事業計画に比べ新規出店のペースが下回っておりますが、当面の最優先課題は黒字化による企業の安定性強化と考えており、短期的な店舗増よりも収益性の向上や管理体制の整備などに重点を置いているところです。安定性重視の考え方は、着実な事業拡大のための戦略であるをご理解ください。いずれにしましても、出店契約が完全に締結された時点で、その都度、発表させていただきます。

### 費用の節減

通信システムの変更、印刷物発注先の変更などを実施してきましたが、消耗品の一括購入などによる費用節減が効果を上げ始めております。引き続き、本社および店舗の管理運営費用の削減を徹底させていく計画です。

### 店舗への集客

経費を極力抑えるため、マス媒体への広告掲載を抑制しておりましたが、一部に売上高が伸び悩む店舗もあることから、コストパフォーマンスの高い媒体を選び広告を行う予定です。あわせてマスコミ各社に広くニュースレターを配布し、パブリシティ活動を強化する計画です。

### 株式公開に向けた準備

株式公開に向け、来期より消費税別会計の採用、商法改正にともなう定款の変更、社内諸規定の整備などを行う予定です。